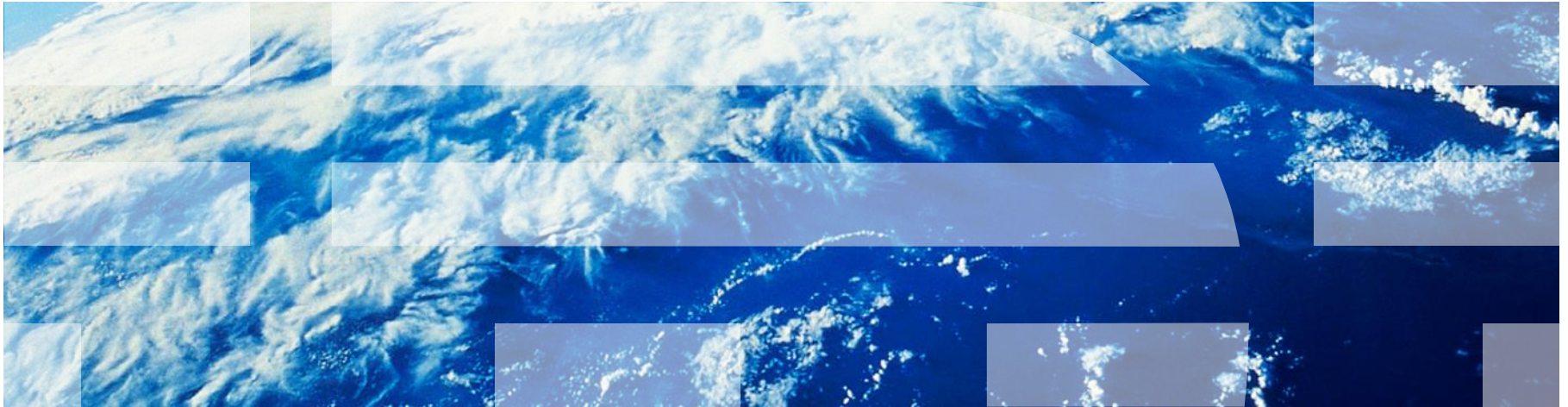


# モバイル開発プロジェクト 成功の秘訣

## グローバル調査結果との比較でみる日本の特徴





IBM Center for Applied Insights は、9カ国\* 585人のモバイルに関わる開発者と開発担当マネージャーを対象にしてモバイル・アプリケーション開発の進め方について調査しました

そのうち日本の回答者は50人でした

\*9か国: 米国、カナダ、ドイツ、イギリス、インド、日本、中国、ロシア、ブラジル

モバイル・アプリケーション 開発プロジェクトのうち、予算、スケジュール、プロジェクト目標 すべてを達成し成功裡に終了している プロジェクトは  
グローバルでは全体の1/3  
日本ではわずか1/4です

成功率を上げるには  
どうすればいいのでしょうか？

経験豊富なチーム、柔軟性の高いプラットフォーム、密接なコラボレーション、ユーザー分析の活用ができていることが、日本と世界で共通した成功の秘訣である

## 適切なチーム



### 経験と専門知識の豊富さが最強のチームを生む

成功したプロジェクトのチームは、モバイル開発の経験が豊富で、かつ必要な業務／業種に特化したスキルを持ったメンバーで構成されているケースが多い

## 適切な方法



### プラットフォームが柔軟性の高い開発の基礎を作る

柔軟性の高い開発を実現するために、プラットフォームや開発手法を活用する  
(アジャイルソフトウェア開発など)



### コラボレーションによってアプリケーション開発を軌道に乗せる

開発者は常に、ビジネス部門、デザイナー、テスト担当者、IT 部門、エンド・ユーザーとコラボレーションしている



### ユーザー分析が次の一手を生む

ユーザーからの直接的なフィードバックだけでなく、利用状況の分析から開発の次のヒントを得ている

# 日本のモバイル開発プロジェクトを成功に導く3つのポイントは開発手法・ユーザー分析・人材にある

## 日本のプロジェクトで着目したいポイント

アジャイルなどの柔軟な開発手法を取り、より多くの利害関係者をプロジェクトに巻き込む

- 日本のモバイル開発プロジェクトはグローバルに比べてアジャイルのような、高いコラボレーションによりスピーディーな開発を実現するような手法を取っているところが少ない
- プロジェクトの利害関係者とのコラボレーションが日本はグローバルに比べてできていない

ユーザーからのフィードバックをアプリケーション開発に積極的に活かす

- ユーザーの声(例:ユーザーレビューやフィードバック)の活用度合が日本はグローバルに比べて低い
- ソーシャルメディアの活用は調査をした9か国の中で一番低い

最新のモバイル開発要件を満たすスキルを持つ開発者を獲得する

- 日本ではモバイル開発経験年数が多い開発者が多く存在する(しかしながらその多くはガラケーの開発者)
- 最新のモバイル開発要件に合致したスキルを持つ開発者を獲得する事に難しさを感じているプロジェクトが散見された

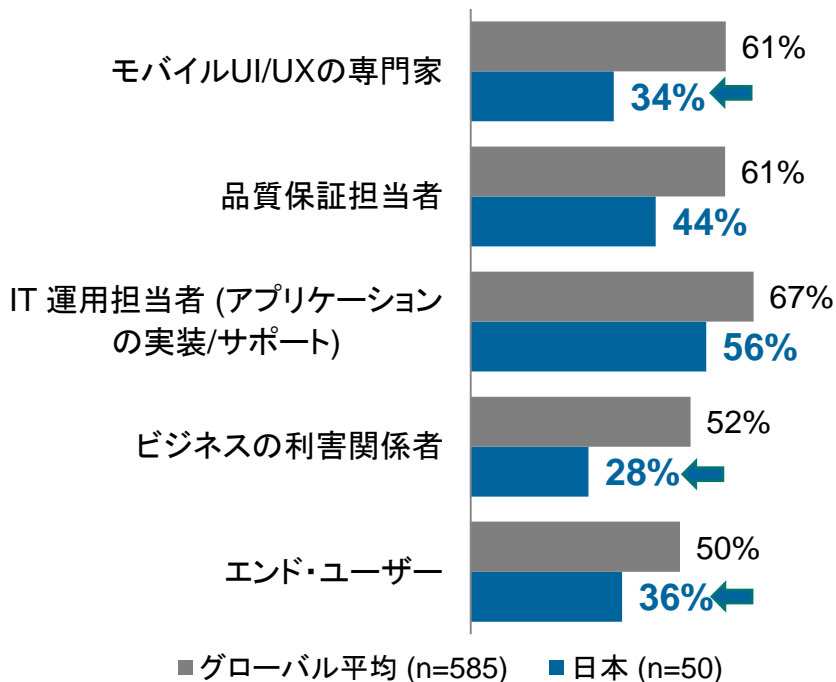
# 日本では利害関係者を巻き込んだアジャイル開発のようなアプローチを取るプロジェクトがグローバルに比べて少ない

日本の開発者はプロジェクトの利害関係者、特に**非ITの関係者**(ビジネスの利害関係者、エンド・ユーザー、UI/UX専門家など)とのコラボレーションが少ない傾向にある

日本の開発者はプロジェクトメンバーを多く巻き込む開発手法をグローバルと比べて**あまり取っていない**傾向にある

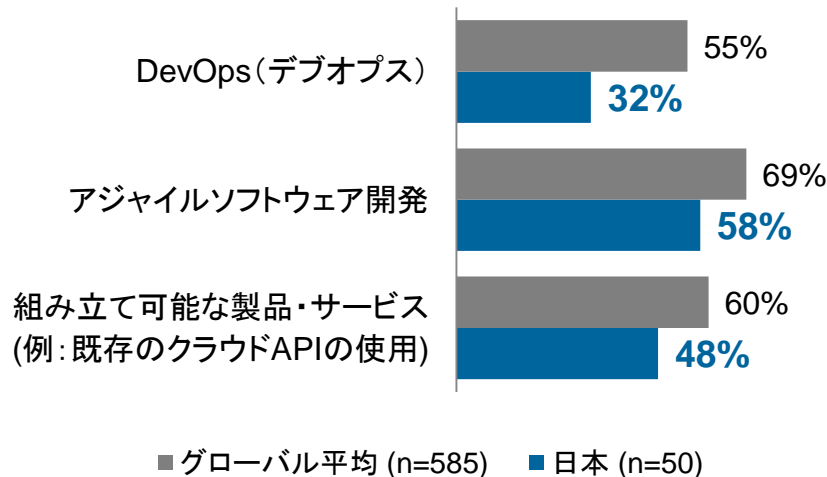
## 密接にコラボレーションをしている関係者

各利害関係者と密接にコラボレーションしていると答えた割合



## 以下開発手法の利用

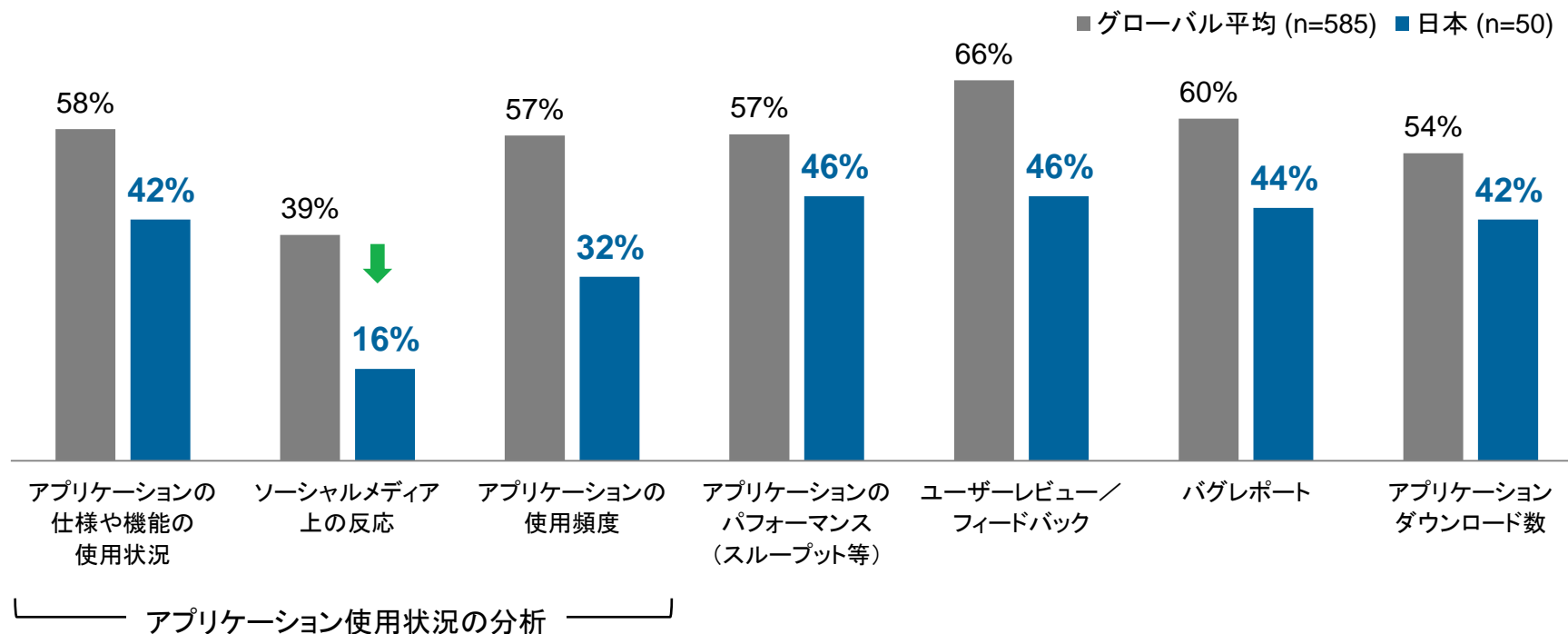
高いコラボレーションとスピーディーな開発を実現する手法を取り入れていると答えた割合



## 日本の開発者はアプリケーションの使用状況をチェックしたり、その結果を分析することがグローバルに比べると少ない

- **アプリケーション使用状況の分析**（仕様や機能の使用状況、ソーシャルメディア上の反応、使用頻度）において、グローバルと日本で大きな差が見受けられる
- 特に**ソーシャルメディアの活用**は、調査した全9か国の中で一番低い結果に

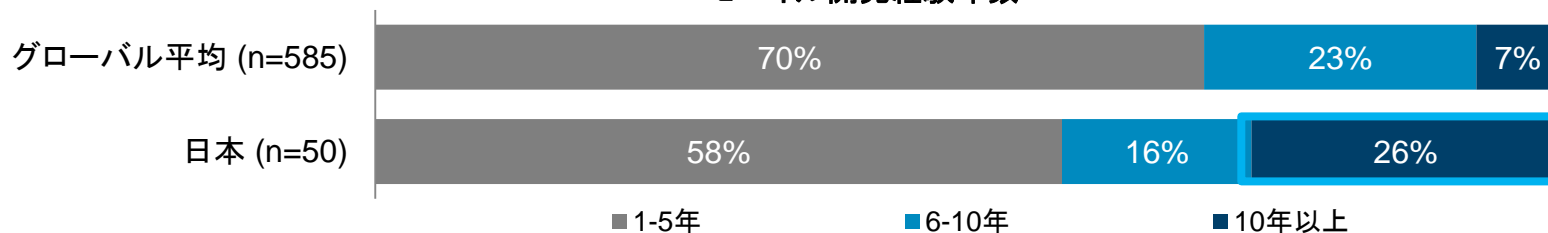
各項目のモニタリング／分析状況



## 日本は経験年数の多い開発者がグローバルより多いとされているが、急速に変化するテクノロジーに対応できるスキルを持った人材の確保に苦慮している

- 日本は10年以上のモバイル開発経験のある開発者が**全体の26%**と他国と比べて突出して高い

モバイル開発経験年数



- モバイル開発プロジェクトの3分の1以上が**特定の事業領域に関する専門知識の不足**を課題として挙げており、また、スキル要件に合った**開発者の確保に苦慮**しているケースも見受けられる

### チーム内に特定の事業領域・業種に関する専門知識が不足している

Q: モバイル開発の主な課題点は何ですか？



### 回答者コメント

「**専門知識を持つ人材の育成**がモバイル開発プロジェクトにおける最大の課題の一つ」（情報サービス産業）  
 「**要件に合った開発者を確保することは大変難しい**。時には確保ができずプロジェクトのスケジュールを遅延せざるを得ない状況に陥ることもある」（金融業界）



回答者



日本のモバイル開発成功の秘訣は、より多くの関係者を開発に巻き込み、ユーザーのニーズを常に敏感に察知し、有能な開発者を獲得することにある

1

アジャイル開発のような開発手法を取り、常に多くの利害関係者をプロジェクトに巻き込む

2

積極的にユーザーフィードバックを取りに行き、その情報を開発に活用する

3

常にモバイルテクノロジーの急速な変化にアンテナを張り、開発者がその変化に対応できるスキルを身に着けられるようにする

調査の詳細については、以下をご覧ください

[bit.ly/cai-jp-mobile](https://bit.ly/cai-jp-mobile)